

# 慢性期医療と薬剤師 No.3

## 薬剤師のフィジカルアセスメント 導入による薬学的ケアの充実化

札幌西円山病院薬剤部長兼診療技術部長 山田 英俊

はじめに

一般的に高齢者は複数疾患治療のために多剤併用、加齢に伴う代謝・排泄機能の低下、運動・嚥下機能の低下により適切な服薬ができないケースが多く、さらに誤嚥などによる急性増悪に伴い、病状が悪化する場



合が数多く認められています。地域で暮らしている高齢者が安心・安全な生活を過ごすためには、病状悪化時などにスムーズな長期間の入院加療が可能な慢性期(療養病床)医療施設への受け入れ体制を整備することが重要となります。

医療施設では高い専門性を兼ね備えたメディカルスタッフが協働して、患者中心の医療を実践するチーム医療を推進しています。その中で、薬物療法の適正化を図る上で薬剤師は非常に大きな役割を担っています。

今回、当院の新たな取り組みとして薬剤師によるフィジカルアセスメントの導入による薬学的ケアの充実化について紹介します。

今回の取り組みとして薬剤師によるフィジカルアセスメントの導入による薬学的ケアの充実化について紹介します。

### 当院におけるフィジカルアセスメント実施の経緯とその実績について

平成22(2010)年4月30日付で厚生労働省医政局長通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」が報告されています(図1)。日本病院薬剤師会では医政局長通知におけるチーム医療の推進と実施を推奨し、医療の質向上と医療安全の確保の観点から、薬剤師が主体的に薬物療法に参加することは非常に有益としています。また、この通知は厚生労働省として現行法(医療法、医師法、薬剤師法等)上で実施可能な薬剤師業務を明示したものであり、薬剤師の標準的業務として位置づけられています。

当院薬剤師のフィジカルアセスメントの実施に際しては、院内の会議体において趣意説明を行い、医師・看護師

などの全メディカルスタッフから薬剤師の業務としてのコンセンサスを頂きました。併せて、フィジカルアセスメントの質担保として、関連学会や団体主催の講演会に薬剤師全員が参加しました。また、薬剤師1人ごとに聴診器を貸与し、血圧計やパルスオキシメーターによる脈拍数と経皮的動脈血酸素飽和度(SpO<sub>2</sub>)のモニター機器の準備も行いました。

薬物療法を受けている患者に対して、薬剤師は適切な薬物治療と患者の副作用の早期発見と防止のための薬学的ケアを実施する必要があります。

このために患者との面談、フィジカルアセスメント(血圧、脈拍、体温、呼吸数、意識レベルなどのバイタルサ

図1 「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」よりの抜粋

- 1) 薬剤師を積極的に活用することが可能な業務  
以下に掲げる業務については、現行制度の下において薬剤師が実施することができることから、薬剤師を積極的に活用することが望まれる。
- ① 薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更や検査のオーダーについて、医師・薬剤師等により事前に作成・合意されたプロトコールに基づき、専門的知見の活用を通じて、医師等と協働して実施すること。
- ② 薬剤選択、投与量、投与方法、投与期間等について、医師に対し、積極的に処方提案すること。
- ③ 薬物療法を受けている患者(在宅の患者を含む。)に対し、薬学的管理(患者の副作用の状況の把握、服薬指導等)を行うこと。
- ④ 薬物の血中濃度や副作用のモニタリング等に基づき、副作用の発現状況や有効性の確認を行うとともに、医師に対し、必要に応じて薬剤の変更等を提案すること。
- ⑤ 薬物療法の経過等を確認した上で、医師に対し、前回の処方内容と同一の内容の処方提案すること。
- ⑥ 外来化学療法を受けている患者に対し、医師等と協働してインフォームドコンセントを実施するとともに、薬学的管理を行うこと。
- ⑦ 入院患者の持参薬の内容を確認した上で、医師に対し、服薬計画を提案するなど、当該患者に対する薬学的管理を行うこと。
- ⑧ 定期的に患者の副作用の発現状況の確認等を行うため、処方内容を分割して調剤すること。
- ⑨ 抗がん剤等の適切な無菌調製を行うこと。

図2 ドネペジル錠による房室ブロックの副作用対処症例

症例：80歳台 男性 既往歴：アルツハイマー病、心不全  
経過：  
201X年  
5月下旬 他院にて右手蜂窩織炎治療後、廃用症候群の進行・寝たきり心エコー上、前壁・心尖・下壁に広範囲の陳旧性心筋梗塞巣心室瘤(+)、心嚢液貯留(+)  
6/28 当院に長期療養目的にて転院、ドネペジル錠の服用継続  
201X年  
3/13 完全房室ブロックの発症、他院にて治療目的で転院  
3/28 帰院 徐脈の持続 声かけに発語・表情の変化のみ  
5/1 薬剤師は徐脈の改善が認められないため、服用薬の確認 ドネペジル錠による徐脈・完全房室ブロックの副作用を疑い 医師への提言  
5/7 家族の同意後、ドネペジル錠の中止  
8/5 ドネペジル錠中止後、徐脈傾向の改善、脚ブロックの安定 患者の覚醒レベル向上、開眼時間の増加

インの確認に加えて、打診、聴診などの評価)、カルテの確認、回診・カンファレンスへの参加等を通じて患者の状態を把握した上で、服薬している薬剤の薬学的管理指導を行う。さらに、薬剤の効果や副作用の発現などについてメディカルスタッフとの十分な情報・意見交換をして、個々の患者にとって最適な処方の提案を行っています。

また、薬剤師が気づいた患者状態の変化の情報提供が、他のメディカルスタッフの業務軽減にもつながっています。今回、フィジカルアセスメントを活用し、薬剤管理指導料の対象外患者

に対して、入院4週間以降に継続した病棟薬剤業務の実施により薬剤師が効果的に関与したドネペジル錠による房室ブロックの副作用対処症例を示します(図2)。今回の症例を通して、全ての入院患者を対象とした長期間の薬学的なケア実施は薬剤師の責務と考えています。

### おわりに

患者状況や他施設で処方された薬剤などを薬剤師がアセスメントして、薬物療法全体(薬剤選択、投与量、投与

## 真の“かかりつけ薬局”を目指す“杏林堂薬局”



- ・借上社宅制度で1人暮らしも負担が少ない!
- ・月に1回以上のセミナーでスキルアップ!
- ・同期全員で行う研修でみんな仲良し!



杏林堂ならではのインターンシップ・見学会のお問い合わせはこちらから...  
TEL 053(453)5555(直通) e-mail saiyou-ky@kyorindo.co.jp

株式会社 杏林堂薬局

〒430-7713 静岡県浜松市中区板屋町111番地の2 浜松アクタワー13階

杏林堂ホームページ <http://www.kyorindo.co.jp>



調剤専門薬局

調剤併設型  
ドラッグストア

ドラッグストア